

牧田諦亮監・落合俊典編

七寺古逸經典研究叢書 第六卷

中國・日本經典章疏目錄

大東出版社

新學  
社  
PDG

The Long Hidden Scriptures  
of  
Nanatsu-dera, Research Series.  
Volume VI.

**CATALOGUES OF SCRIPTURES  
AND THEIR COMMENTARIES  
IN CHINA AND JAPAN**  
**Volume VI.**

Editor in Chief

**MAKITA TAIRYŌ**

Managing Editor

**OCHIAI TOSHINORI**

DAITŌ Publishing House, TOKYO  
1998



七寺古逸經典研究叢書 第六卷  
中國・日本經典章疏目錄

一九九八年二月二〇日 初版第一刷發行 ©

定價 一八、三五〇円

監修

まきたたいりよう  
牧田諦亮

編集

おちあいつしのり  
落合俊典

著作権者

牧田諦亮 A. Forte 宮林昭彦 落合俊典

齊藤隆信 宮崎健司 梶浦 晋 大内文雄

G. Paul

研究成果刊行費  
補助金申請者

落合俊典

發行者

岩野文世

發行所

株式会社 大東出版社

〒113-0001 東京都文京區白山一―三七一―二〇  
電〇三(三三)八二六〇七 傳〇三(三三)八二八(一)五二八

印刷・熊谷印刷 製本・關山製本社

補助金交付：文部省科學研究費補助金「研究成果公開促進費」

ISBN-500-00604-4 C3315 ¥17476E



右點

法勝寺  
金字註

左點

伏見本

星點

梵釋  
寺本

貞元新定釋教目錄卷第二十九

入藏錄上

合大小乘經論及賢聖集傳

貞元新入藏經總一千二百三十八部

合五千三百五十一卷四百零七帙

大乘入藏錄上

大乘經六百三十七部二千三百八十三

卷二百一十四帙

大乘律二十七部五十五卷五法

一切經論律章疏集(傳錄)并私記卷上

合二万二千三百卷

顯壽真言梵漢總數

一大乘經五百四部二千三百八十六卷

二百七帖

大乘律二十八部二千三百五十卷

大乘論九十八部五百十四卷

一小乘經律

三百

七百卷

小乘論數

四百

一法相宗法門三百六十卷

三論宗二百五十卷

一天台宗二百四十五種

六千八百九十七帖

求法僧取證

一靈巖僧圓行錄八十七卷

安祥寺惠雲僧都二百廿卷

標霞寺齋然法師七百五十卷

一右大臣求學十二宗三万九千卷

大學六明經記傳明法筆經

音傳 齒書

舊陽五天文漏刻曆日醫方

七寺藏·一切經論律章疏集(傳錄)并私記卷上 卷首

掌疏論新簡一卷

元曉撰

一 真言經部類

無量壽經論釋五卷

智光

無量壽觀經記

上中下

去一

無量壽經記

上中下 去一 集 六十  
三枚

無量壽玄記四卷

善道集

淨土群疑論七卷

懷感撰 百十六枚

無量壽

上中下 述義

藏弄

無量壽經述記

上中下

弄集

阿彌陀經

上中下

惠淨

無量壽經義疏

上下 法華

無量壽經述記

上下 七十一枚

龍興

觀無量壽經 上下

吉藏

阿彌陀經隨緣妙

上下

智周

無量壽經緣化去

上下

阿彌陀三根三佛他

止下

無量壽蓮藏文贊

上下 廿三枚

西方法事讚一卷

十二枚

讚阿彌陀論一卷

羅什 十六枚

西方要火一卷

十六枚

未詳

身身論疏一卷

元者論記一卷

百論疏記一卷

百論記上卷

百論序一卷

中論疏十卷

中論疏二卷

中論疏四卷

中論疏五卷

中論疏六卷

中論疏十二卷

中論疏八卷

百論疏三卷

百論疏一卷

百論疏二卷

百論疏三卷

百論疏一卷

十二門論疏二卷

十二門論疏一卷

十二門論疏一卷

十二門論疏一卷

十二門論疏二卷

十二門論疏一卷

十二門論疏一卷

十二門論疏一卷

法華

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

十一紙

## 監 序

牧 田 諦 亮

一九九四年二月に本叢書第一巻刊行以來滿四年を経て、七寺所藏の經典目錄ならびに章疏目錄を中心とする第六巻が刊行されたことはまことに喜ばしいことである。第一巻に『毘羅三昧經』という、中國最初の經典目錄としての釋道安撰集の『綜理衆經目錄』にその名を留めてはいるが、敦煌寫經群にもその存在が見られない疑經が、夙に奈良時代日本に流入、寫經所で幾度か書寫され、その轉寫本が一一七五年に京都法勝寺經藏本を借り出して清水寺で書寫されたものが、名古屋七寺經藏に現存しているという事實は、佛教書誌學の上からも、まさに歴史の重みを感じさせられるものであることは周知のところである。

本巻においては、『大周刊定衆經目錄』、『貞元新定釋教目錄』、『古聖教目錄』などの七寺所藏本を中心として、さらに平安時代の書寫と見られる京都法金剛院藏の『大小乘經律論疏記目錄』をも翻刻してその全文を収載している。『大周刊定衆經目錄』も現行本と異なつて、則天武后の實權掌握後の新たな宗教政策によつて生じた事態に對應した改訂本であること、また塚本善隆博士によつて指摘された『貞元新定釋教目錄』も七寺藏本が同系統に屬し、現行本とは異なるものであるなど、中國・日本の佛教史研究の上に貴重な貢獻をなすものであることが知られる。本巻も七

監

寺古逸經典研究會の同志の眞摯な研究意欲の成果と考えられる。執筆者の一人、イタリアのナポリ大學教授であり、イタリア國立東方學研究所々長アントニーノ・フォルテ氏は一九六六年春、まさに笈を負うて京都大學人文科學研究



所にいたり、中國佛教史の研究に専念して今日にいたっている。爾來三十二年に及んで、イタリヤと日本との兩棲人類として多忙の中に安世高、則天武后の佛教活動について顯著な報告を出しておられる。とくに七寺一切經については、その研究活動の最初から積極的に活動し、一九九一年十月には THE MANUSCRIPTS OF NANATSU-DERA を出版して世界に一舉に七寺一切經の存在を知らせた。今回も則天武后の宗教政策に關する論稿を寄せられた。深謝するものである。

私どもの七寺古逸經典研究會は、今も毎週金曜日の研究會を持ち、いよいよ明年は『今昔物語集』説話の一つに重要なかわりを持つ、『大乘毘沙門功德經』關連の第四卷を刊行する豫定で、研究が進められている。平成十二年春、西曆二〇〇〇年二月の全六卷完結をめざして、同志の一層の努力精進を期するものである。

(七寺古逸經典研究會會長)

Wells / M / 18

## 序

落合俊典

本卷には刊本（麗本・宋本・元本）等とは若干異なる『大周刊定衆經目錄』（以下『武周錄』）や『貞元新定釋教目錄』（以下『貞元錄』）などの經典目錄を収載するとともに、これまで始ど知られていなかった平安時代の章疏目錄を収めた。

中國で編纂された經典目錄類は總計して膨大な量に達するが、その中でも重要な經典目錄は『開元釋教錄』（以下『開元錄』）であろう。この『開元錄』はそれまでの經典目錄を精査するとともに數多の經典に直接當たつて調査検討した成果が盛り込まれている。しかし、全面的に信が置けるわけではない。特に費長房の『歷代三寶紀』に依據した箇所などは概して内實の無い記述となっている。また、『開元錄』成立時に大きな影響があった『武周錄』を相當意識して編纂しているが、その態度に一貫性が見られない點などである。

『開元錄』編纂者の智昇（773-805）が意識した『武周錄』は、その杜撰性の故もあつて經典目錄學史からの研究は少なかつた。ところが本卷の巻頭を飾る『武周錄』卷十一は、從來知られていなかった異本である。しかも則天武后時代の年號が記され、宗教政策の一端が垣間見られる資料となっている。不思議なことに、この七寺本の出現を待っていたかのように京都妙蓮寺藏の平安時代書寫松尾社一切經の『武周錄』や、大谷大學藏法隆寺一切經の『武周錄』からも七寺本と同類の異本が出現したのである。則天武后の宗教政策研究上からアントニー・フォルテ（A.

Forle) イタリア國立東方學研究所長の論稿を、編纂僧と所屬寺院との關係から大内文雄大谷大學教授の研究を掲載した。解題では筆者が平安時代寫本に残る「聖曆三年奉行」の箇所を抽出した。

\*

\*

また、經典目錄史上優位な價值を有する『開元錄』に對して、貞元十六年(八〇〇)に成立した『貞元錄』は『開元錄』を踏襲した目錄との二次的價值に甘んじてきたが、實際の一切經書寫に當たっては所依の目錄とされて來たことも事實である。特に日本の平安朝にあつては『貞元錄』卷二十九と卷三十の入藏錄の二卷が一切經書寫の指針となつたのである。

ここに載せた『貞元錄』入藏錄は圓照編纂の祖本『貞元錄』ではないと考えられるが、刊本より一步も二歩も古形を保っている入藏錄であるとともに、平安時代中後期を代表する入藏錄である。翻刻ならびに解題は、筆者の七寺一切經調査を導いていただいた宮林昭彦大正大學教授が快く擔當を引き受けて下さつた。

\*

\*

一切經書寫事業の華やかさの陰に隠れてともすると忘れがちなのが章疏類の書寫であるが、この事業も一切經と同様指針となるものが必要であつたことは言うまでもない。七寺古逸經典研究叢書という名稱の範疇に入らないが、その重要性に鑑み敢えて參考資料として本卷に収録したのが、舊法隆寺藏にして現在京都の法金剛院藏になる『大小乘經律論疏記目錄』上下二卷である。一切經書寫の大事業に取り組んできた法隆寺の五師のひとり靜因が傳領してしたことから、一切經書寫事業の終了後にこの章疏類の書寫を旨指したのかも知れない。目錄の内容から法相系の大寺院の所藏目錄であつたと想定される。

さて、七寺一切經中にも章疏目錄が二部残されている。紙の貼り繼ぎ状態を見ると一切經書寫で餘つた端切れ紙を

用いていることが判明する。このことから一切經典書寫事業の次に章疏の書寫まで行う豫定があったかどうか疑わしいが、『古聖教目録』（擬題）と『一切經論律章疏集（傳錄）并私記』卷上とは、七寺が寫經事業に當たつて特に依據した京都の法勝寺もしくはその周邊の藏書であつたと考えられる。

これらの章疏目録の内容を吟味していくと、法金剛院本も七寺藏本も章疏の分量は一切經そのものと比肩するほどの量であつたことが見えてくる。從來平安時代の章疏目録は、『諸宗章疏目録并因明錄』と『東域傳燈目録』ならびに『山王院目録』等であつた。それらに新たに三部加わつたことになるが、興味深いことは奈良朝現在一切經疏目録にもまた平安以後の目録にも載らない書目が散見されることである。これら新出章疏の書目ならびに撰者名に關心を持つてあろう研究者の一助にするべく、章疏目録の書名索引と人名索引とを作成した。これは知恩院淨土宗學研究所の齊藤隆信助手が擔當したが、コンピュータ處理に當たつては華頂短期大學の相原良直教授が特に盡力して下さつた。記して謝すとともに、この索引によつて今後この方面の研究が大いに進捗することが期待される。

以上の章疏目録のうち、『古聖教目録』（擬題）の翻刻・解題は筆者が、『一切經論律章疏集（傳錄）并私記』卷上の翻刻・解題では宮崎健司大谷大學助教が擔當し、『大小乘經律論疏記目録』の翻刻ならびに研究は梶浦管京都大學人文科學研究所助手の擔當になる。なお、ドイツのカールスルーエ (Karlsruhe) 大學のパウル (G. PAUL) 教授は『古聖教目録』に載る因明錄の研究を寄せていただいた。

\*

\*

平成六年より刊行が始まつた七寺古逸經典研究叢書は本書で都合四冊となつた。第一卷から第三卷までは中國撰述經典（疑偽經典）を収録したために、ともすると七寺一切經は疑偽經典の本據地のように思われているが、本書に収載した經典目録と章疏目録によつて七寺一切經のもつ眞の世界が見えてきたことと信じる。七寺一切經は特殊な一

切經ではなく、平安時代にあつて最もオーソドックスな一切經であつた。オーソドックスたらんとすれば必ず不入藏録に擧げられた書目を書寫せざるを得ないのである。そこには智昇によつて排除された重複經典ならびに別生經典や疑偽經典が相當數記載されている。そういうものがありようが大寺院という意識を有する經藏の内實であつたのであろう。平安時代末期の七寺がどのようにしてこれら大寺院に接近したのか、傍證する古記録古文書類が何一つ残されていないが、中國・日本にわたる經典目錄史上の研究と現資料の總的研究によつてこれらが解きほぐされてきたとも言える。

法金剛院本の章疏目錄は、十二世紀初頭の法隆寺一切經書寫事業を擔つた僧侶の有した目錄であるが、一見した者はその内容の豐饒さに瞠目するに違いない。同様に七寺に藏されていた章疏目錄も偽りの資料ではなく、京都の法勝寺もしくは近邊の藏書目錄とするならば首肯できるであらう。法金剛院本は七寺一切經の正當性を主張する傍證資料と言つても過言ではない。

この度法金剛院の川井戒本住職の特別のご配慮を得て、このような貴重な平安時代經卷（重要美術品）の『大小乘經律論疏記目錄』を翻刻することが出来、衷心より感謝する次第である。また翻刻閲覧にあたっては京都國立博物館の赤尾榮慶主任研究員に種々ご配慮いただいた。

七寺一切經の整理・調査作業は平成二年以來連綿として續いているが、今回の卷の爲の再調査にも蟹江良三住職は快く引き受けていただいた。相變わらぬ師の研究援助の姿勢に胸が熱くなるばかりである。このような御住職の一貫性に七寺一切經の今日を見る思いがするのは筆者だけではないだろう。

また本卷の全體的な構成や細部の諸問題について、從來にも増して監修者である牧田諦亮博士にご懇篤な指導を賜ることが出来た。

なお、本書の刊行については平成九年度文部省科学研究補助金『研究成果公開促進費』の交付を受けた。記して感謝の意を表したい。

(七寺古逸經典研究會幹事)

# 目次

監序

牧田諦亮

序

落合俊典

## 資料篇

大周刊定衆經目錄卷第十一（擔當 A. Forte・落合俊典）……………3

影印・翻刻

解題

貞元新定釋教目錄卷第二十九・卷第三十（擔當 宮林昭彦・落合俊典）……………59

翻刻

解題

古聖教目録〔擬題〕（擔當 牧田諦亮・落合俊典・齊藤隆信）……………129

影印・翻刻

解題

一切經論律章疏集（傳錄）并私記卷上（擔當 宮崎健司）……………239

影印・翻刻

解題

（法金剛院藏）

大小乘經律論疏記目録（擔當 梶浦 晉）……………329

翻刻

章疏索引（擔當 齊藤隆信）……………379

## 研究篇

『大周刊定衆經目録』の成立と譯經組織……………大内文雄……………449

——譯經從事者の所屬寺院を中心として——



|  |                     |     |
|--|---------------------|-----|
| 平安時代における入藏録と章疏目錄について……………  | 落合俊典……………           | 471 |
| 法金剛院藏『大小乘經律論疏記目錄』について……………   | 梶浦 音……………           | 497 |
| Some considerations on the historical value of the Great Zhou<br>Catalogue……………  | Antonino Forte…………… | 530 |
| Zur Liste der begründungstheoretischen Schriften (Immyō-<br>ron sho bu 因明論疏部) im neuentdeckten <i>Allen Verzeichnis</i><br><i>buddhistischer Lehren</i> ( <i>Ko shōgyō mokuroku</i> 古聖教目錄)<br>des Nanatsu-dera Tempel…………… | Gregor Paul……………    | 550 |
| あとがき   |                     |     |
| 英文目次   |                     |     |